

練馬区高齢者基礎調査報告書

概要版

平成 20 年（2008 年）3 月

練馬区

【 目 次 】

	ページ
1 高齢者の社会参加	3
2 健康の保持増進	5
3 ひとりぐらし高齢者世帯等の状況	7
4 高齢期の住まい	9
5 在宅での医療・看護・介護	11
6 地域包括ケアシステム（地域包括支援センター）	13
7 介護予防	15
8 認知症高齢者の状況	17
9 介護人材の確保	19

【 調査について 】

練馬区では、平成 21 年度から 23 年度を計画期間とする第 4 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に取り組んでいます。

この高齢者基礎調査は、計画策定の基礎資料とするため、区内にお住まいの 65 歳以上の高齢者およびこれから高齢期を迎える 55～64 歳の方から生活実態やご意見・ご要望を、また、介護サービス事業者からは事業内容や介護保険制度に対するご意見などをお伺いしたものです。

5つの調査は郵送で実施しました。調査期間は、①～④は平成 19 年 12 月 6 日～12 月 20 日、⑤は平成 20 年 2 月 1 日～2 月 15 日です。

<p>① 高齢者一般調査 【高齢者一般】 ※ 【特定高齢者】</p> <p>※ 65 歳以上の方を対象とする「生活機能評価」の結果、要支援・要介護になるおそれがあると評価された方を指します。</p>	<p>【高齢者一般】住民基本台帳から介護保険の認定を受けている方を含む 65 歳以上の方から無作為に 3,000 人を抽出しました。(ただし、【特定高齢者】、③および④調査の該当者を除く) 〔有効回収数 2,223 有効回収率 74.1%〕</p> <p>【特定高齢者(利用)】特定高齢者の認定を受けており、かつ平成 19 年 4～11 月までに介護予防事業を利用した 135 人を対象としました。 〔有効回収数 119 有効回収率 88.1%〕</p> <p>【特定高齢者(未利用)】特定高齢者の認定を受けており、かつ介護予防事業を利用していない方から無作為に 200 人を抽出しました。 〔有効回収数 154 有効回収率 77.0%〕</p>
<p>②これから高齢期を迎える方の調査 【これから高齢期一般】 【介護サービス利用者】</p>	<p>【これから高齢期一般】住民基本台帳から介護保険の認定を受けていない 55～64 歳の方から無作為に 1,000 人を抽出しました。 〔有効回収数 552 有効回収率 55.2%〕</p> <p>【介護サービス利用者】介護保険の認定を受けており、かつ介護サービスを利用している 55～64 歳の方から無作為に 200 人を抽出しました。 〔有効回収数 99 有効回収率 49.5%〕</p>
<p>③介護サービス利用者調査</p>	<p>介護保険の認定を受けており、かつ介護サービスを利用している 65 歳以上の方から無作為に 3,000 人を抽出しました。(ただし、調査①の該当者を除く。) 〔有効回収数 1,694 有効回収率 56.5%〕</p>
<p>④介護サービス未利用者調査 (要介護認定者調査)</p>	<p>介護保険の認定を受けているが、介護サービスを利用していない 65 歳以上の方から無作為に 1,500 人を抽出しました。(ただし、調査①の該当者を除く。) 〔有効回収数 892 有効回収率 59.5%〕</p>
<p>⑤介護サービス事業所調査</p>	<p>介護サービスを提供している区内の 459 事業者を対象としました。 〔有効回収数 275 有効回収率 59.9%〕</p>

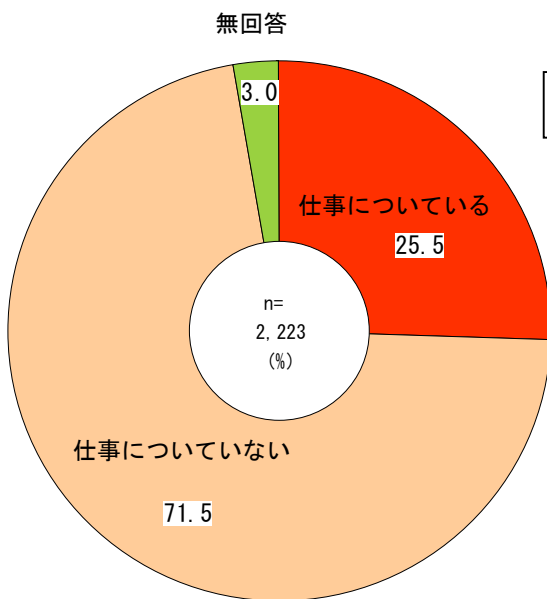
この「練馬区高齢者基礎調査報告書 概要版」では、5種類の調査の中から主な調査結果を抜粋して紹介しています。詳しい調査結果については「練馬区高齢者基礎調査報告書」をご覧ください。

1 高齢者の社会参加

高齢期を迎えた方が、経験や能力に応じた働き方を続けたり、地域活動などに参加することは、高齢者自身の健康・生きがいづくりにつながるものです。

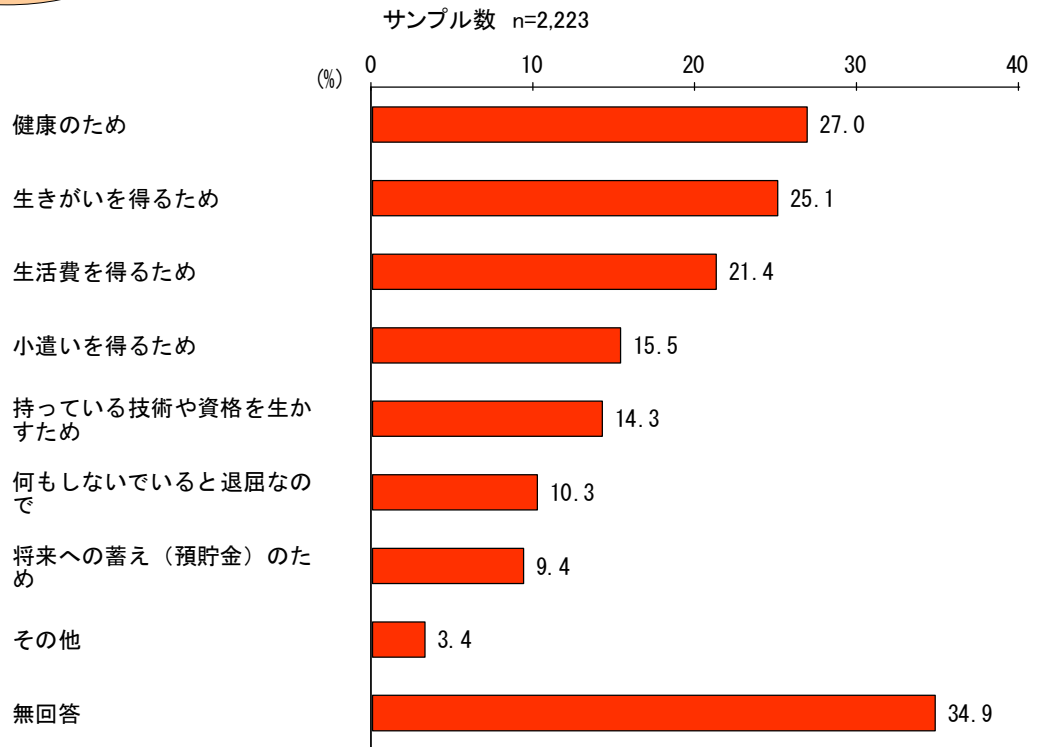
高齢者一般調査（65歳以上）では、25.5%が「仕事についている」という結果であり、前回（平成16年）の結果（26.0%）とほぼ同様です。

また、就労理由（今後の就労意向のある者も含む）では、「健康のため」が27.0%と最も高く、次いで「生きがいを得るため」（25.1%）という結果でした。



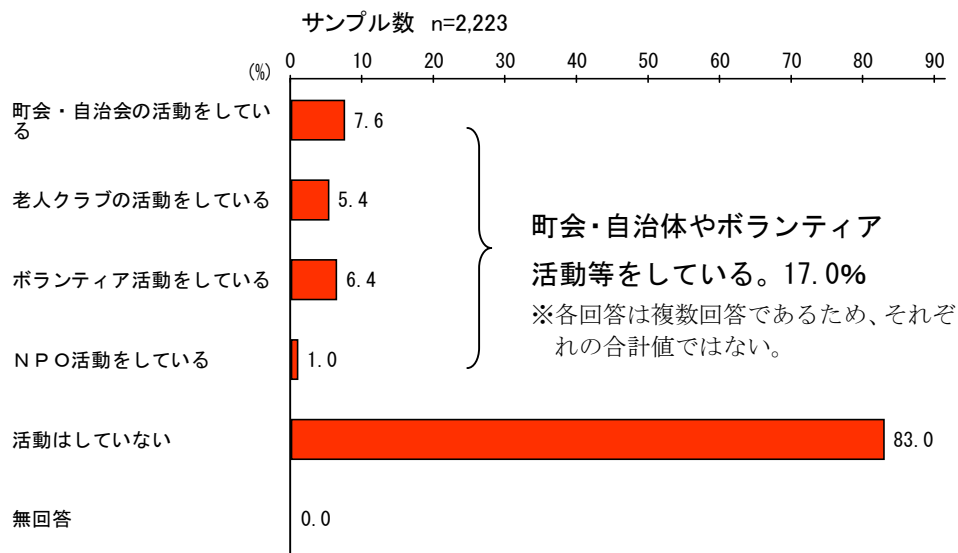
就労状況: 高齢者一般 (65歳以上)

仕事についている、または今後仕事につきたい理由 (複数回答): 高齢者一般 (65歳以上)



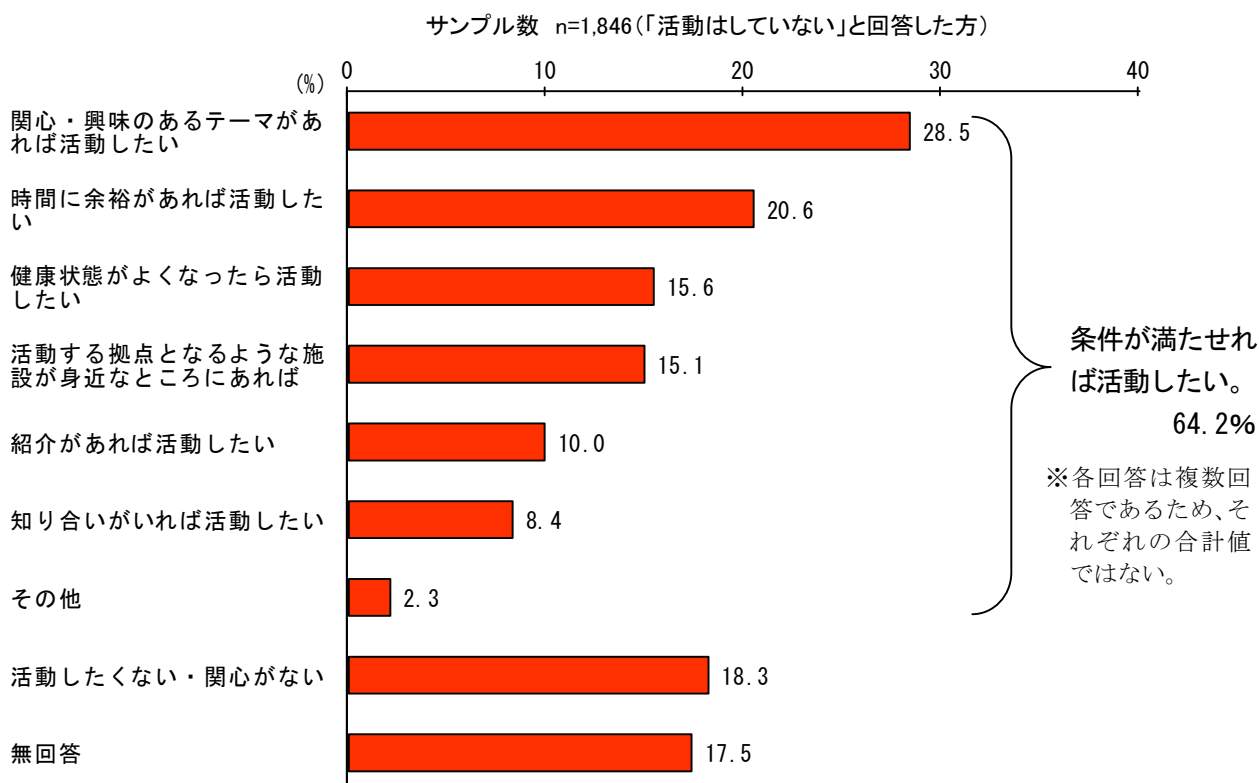
地域活動への参加については、現在、町会・自治会やボランティア活動など何らかの形で地域活動に参加しているという回答は 17.0%であり、前回（平成 16 年度）の 15.5%を若干上回っています。

町会・自治会やボランティア・NPO 活動への参加状況(複数回答):高齢者一般(65 歳以上)



一方、現在「活動はしていない」と回答した方のうちでも、28.5%は「関心・興味のあるテーマがあれば活動したい」、20.6%は「時間に余裕があれば活動したい」など、64.2%が条件が満たせれば活動したいと考えています。

活動に必要な条件やきっかけ(複数回答):高齢者一般(65 歳以上)

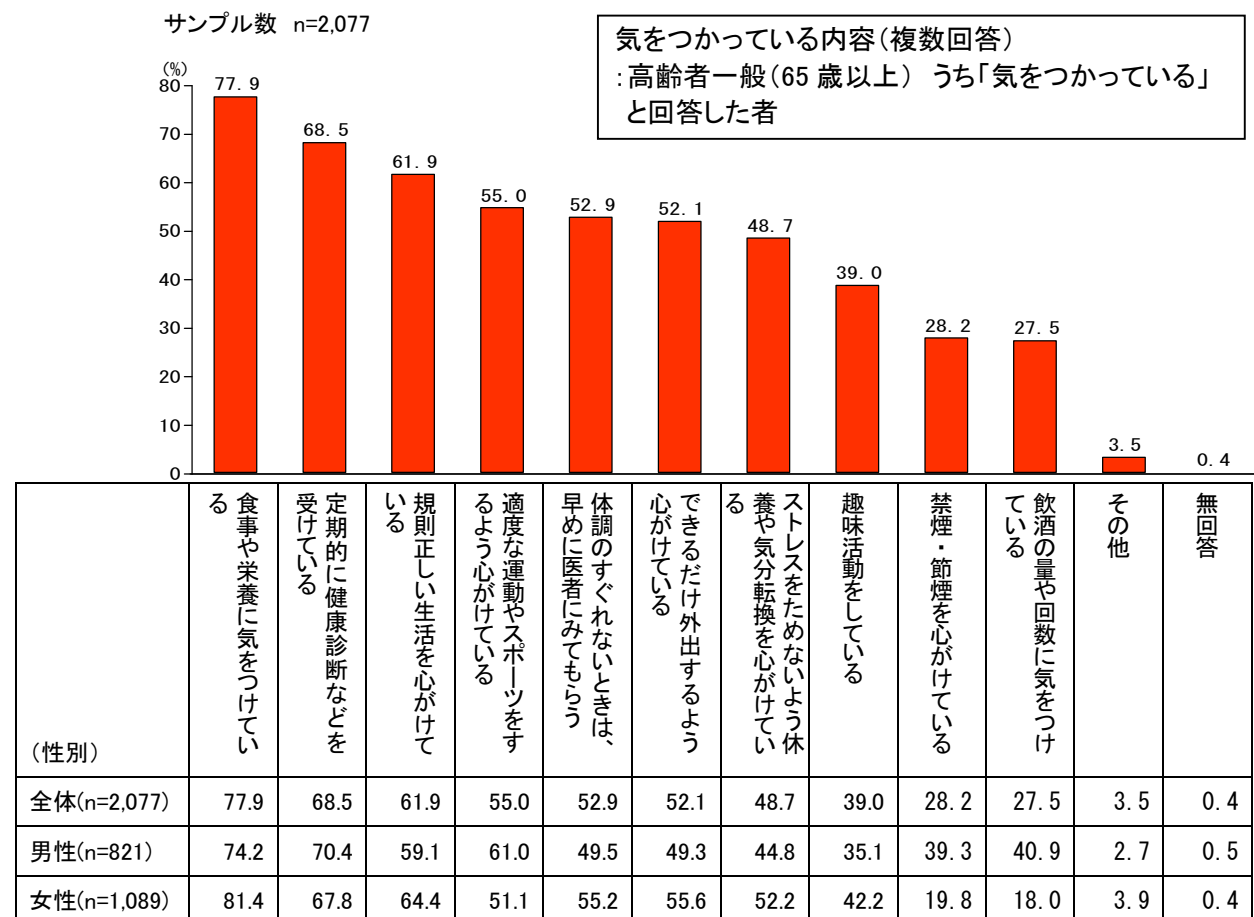
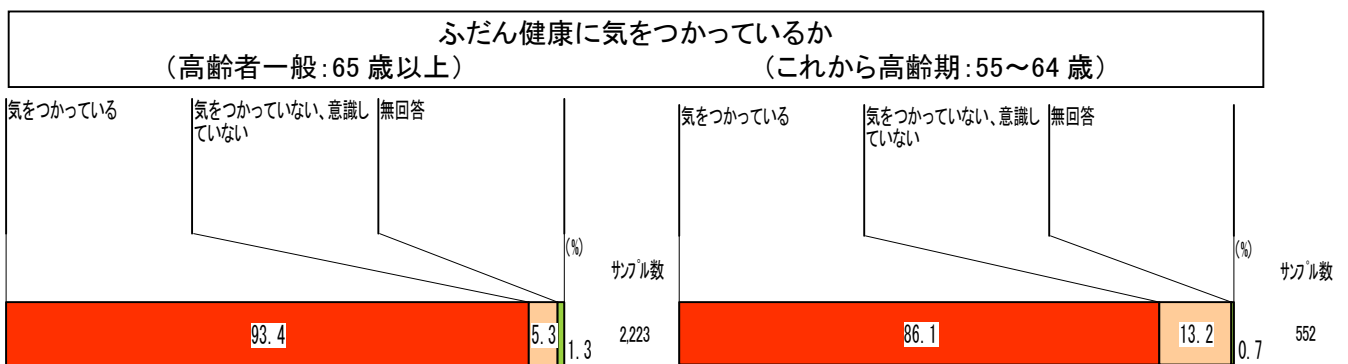


2 健康の保持増進

生涯を通じた健康の保持・増進は、だれもが望むことであり、日常生活で健康づくりに取り組む工夫や心がけが必要です。

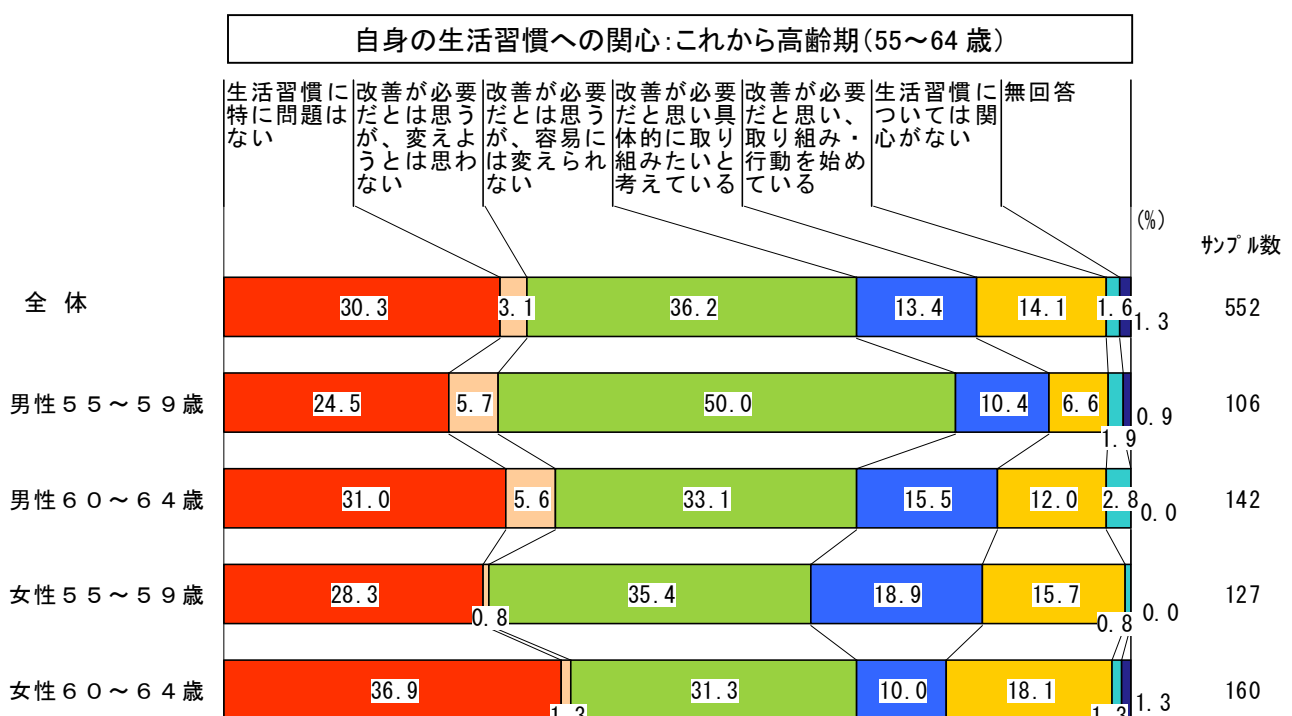
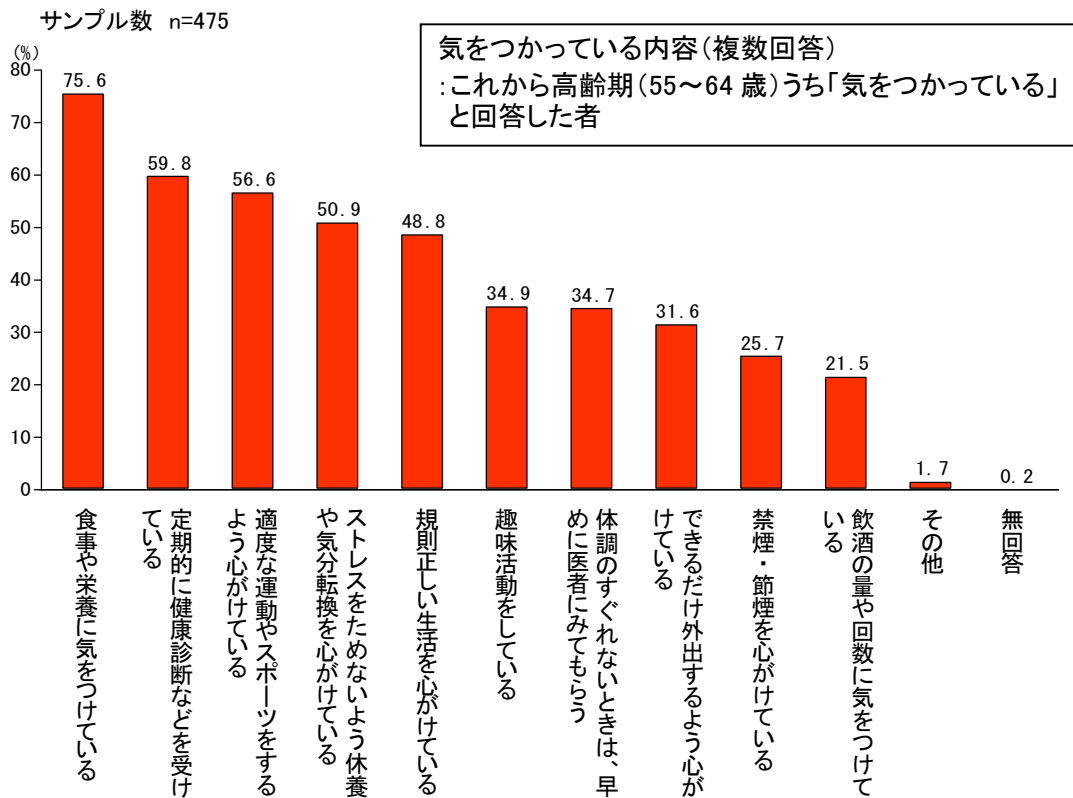
高齢者一般調査（65歳以上）では、「ふだん健康に気がつかっている」と回答した方（93.4%）の多くが、特に気がつかっている内容について「食事や栄養」「定期的な健康診断」「規則正しい生活」と回答しています。また、男性では「適度な運動やスポーツなど」「禁煙・節煙」「飲酒の量や回数」などをあげる割合が女性よりも多くみられます。

男性、女性それぞれの意識や行動に着目した健康づくりも重要なポイントであることが分かります。



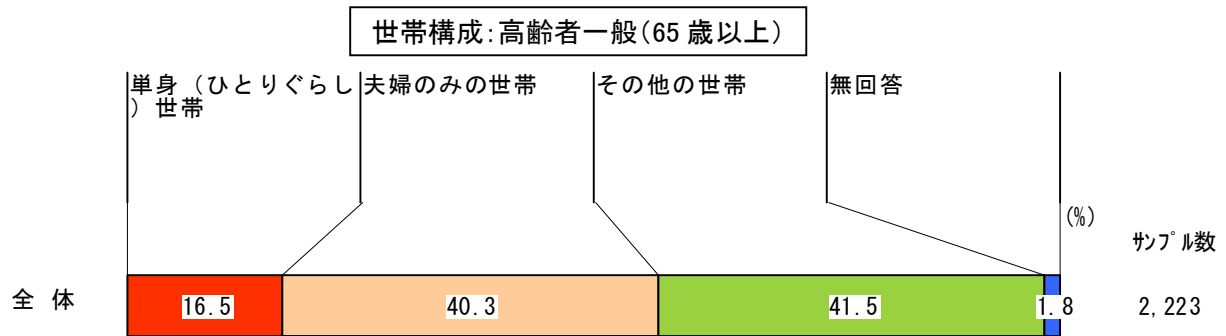
これから高齢期を迎える方への調査（55～64 歳）では、「ふだん健康に気がつかっている」と回答した方（86.1%）の多くが、特に気がつかっている内容について「食事や栄養」「定期的な健康診断」「適度な運動やスポーツ」「休養や気分転換」と回答しています。

しかし一方で、自身の生活習慣への関心については、特に男性の50代後半で「改善が必要だとは思わないが、容易には変えられない」状況がうかがわれます。

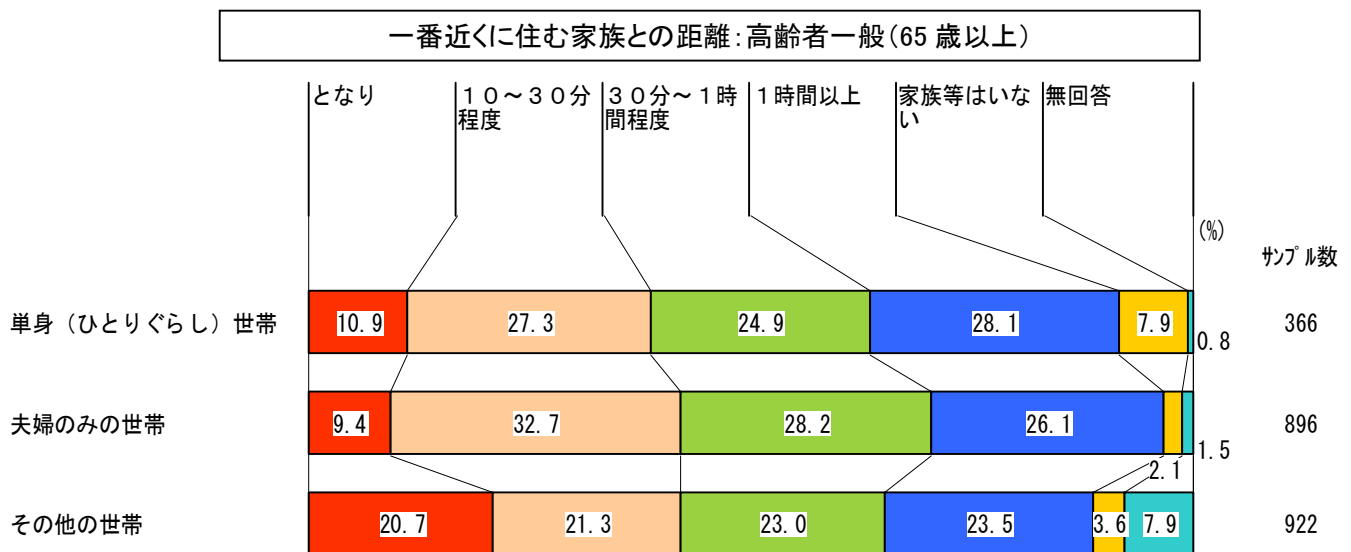


3 ひとりぐらし高齢者世帯等の状況

高齢者の増加に伴い、ひとりぐらしや夫婦のみの世帯が増加しています。高齢者一般調査（65歳以上）では、ひとりぐらし世帯の割合は16.5%と前回（平成16年）の結果（15.9%）よりも増加しています。夫婦のみの世帯の割合は40.3%で、前回（平成16年）の結果（40.4%）とほぼ同じです。

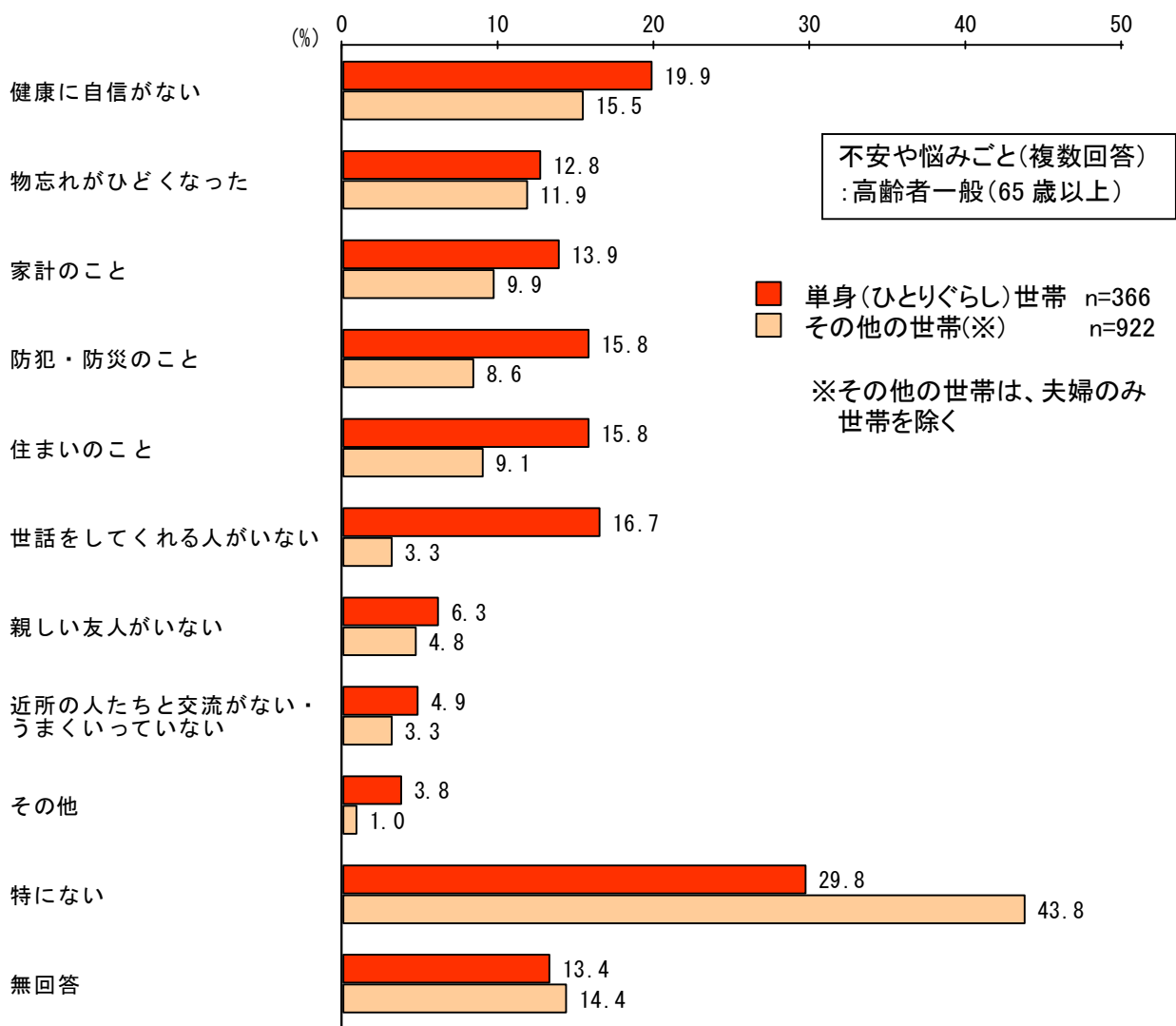


一番近くに住む家族との距離については、高齢者一般調査（65歳以上）では、いずれの世帯でも約3割が「1時間以上」または「家族等はいない」と回答しています。



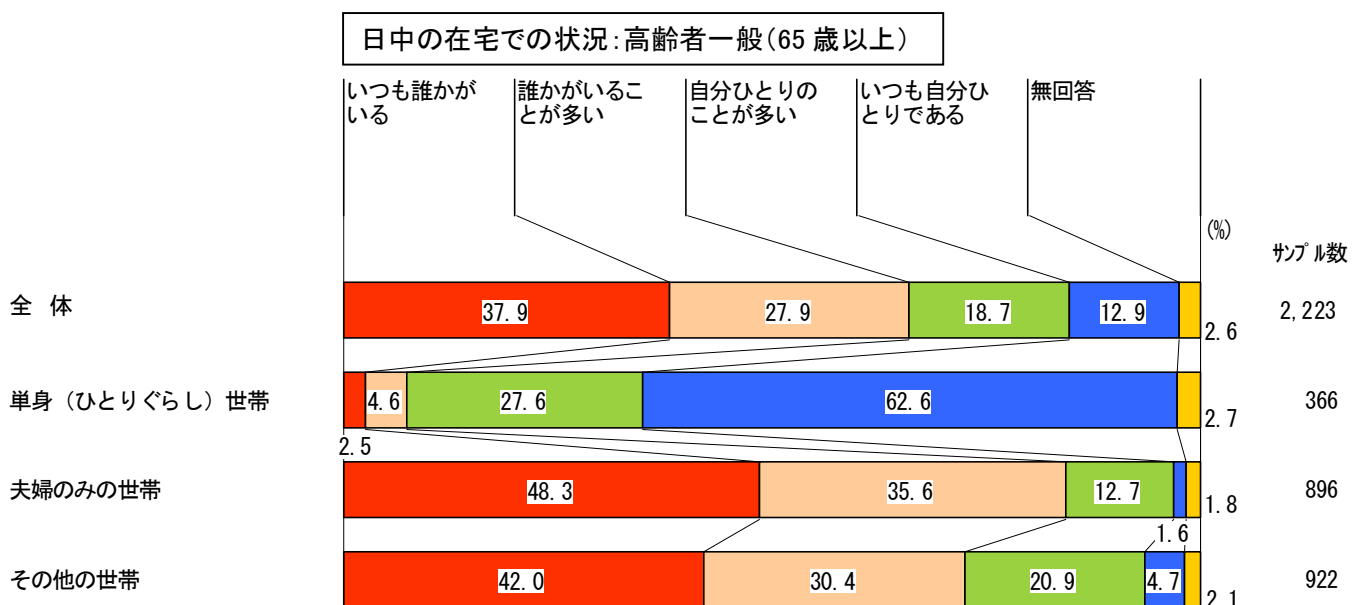
高齢者一般調査（65歳以上）では、ひとりぐらし世帯では、不安や悩みごととして、「健康に自信がない」「家計のこと」「防犯・防災のこと」「住まいのこと」「世話をしてくれる人がいない」などをあげる割合がその他の世帯よりも多くみられます。

（次ページ上段図参照）



ひとり暮らし世帯でなくても、同居家族が働いている、学校に行っているなど、日中はひとりで過ごしているという方もいます。

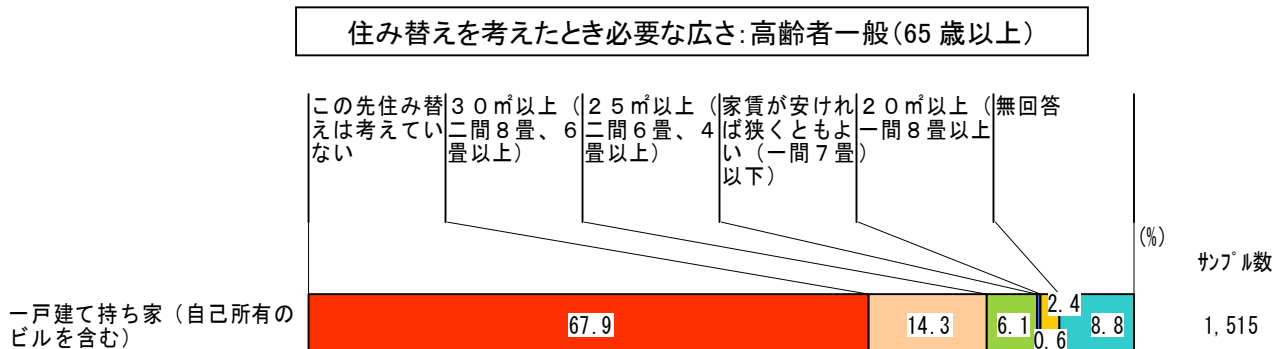
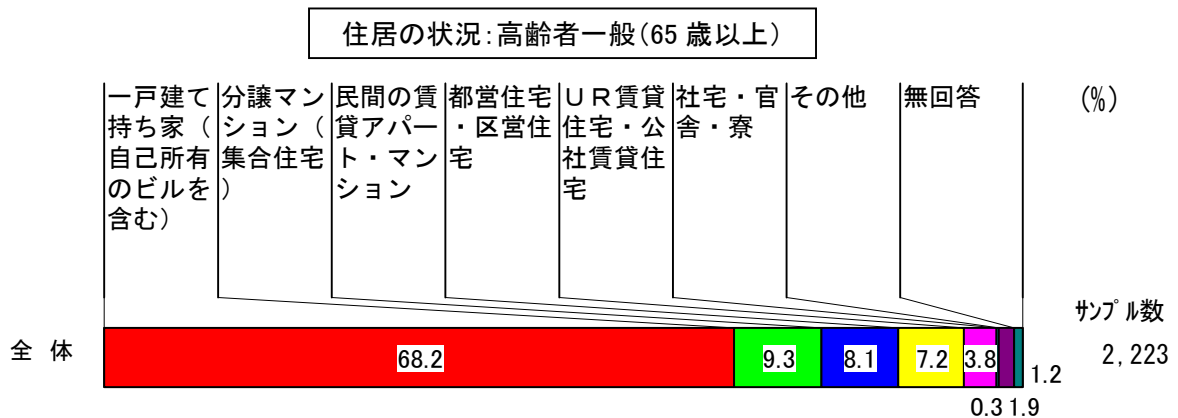
高齢者一般調査(65歳以上)では、「その他の世帯」のうち25.6%は、日中の自宅では「自分ひとりのことが多い」、「いつも自分ひとりである」と回答しています。



4 高齢期の住まい

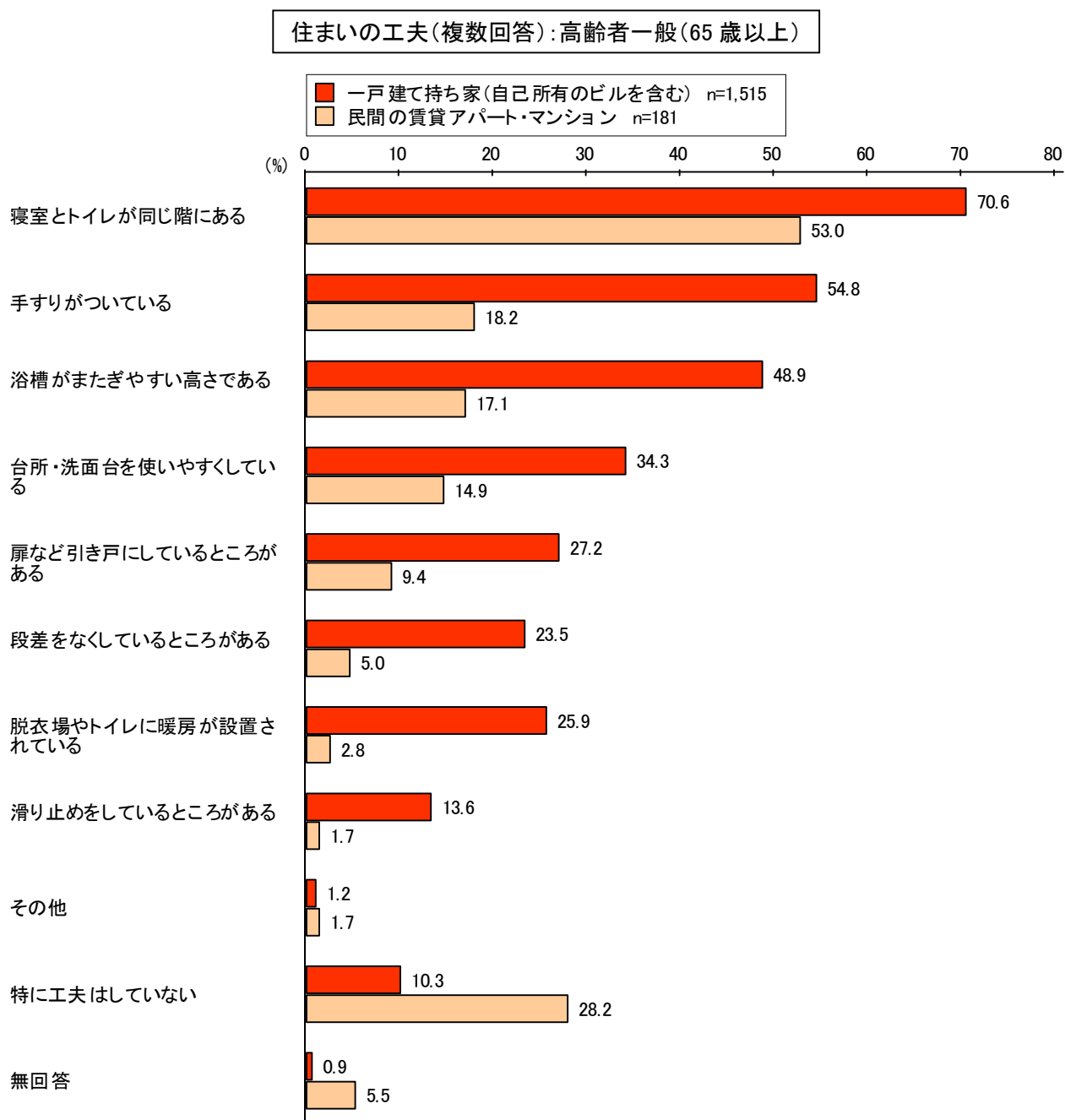
高齢者が、住み慣れた地域で豊かにいきいきとした生活をおくるためには、安全で安心な住まいが必要です。

高齢者一般調査（65歳以上）では、約7割の方が一戸建ての持ち家に住んでいると回答しています。また、現在一戸建ての持ち家に住んでいると回答した方のうち、約7割の方は、「この先住み替えは考えていない」と回答しています。



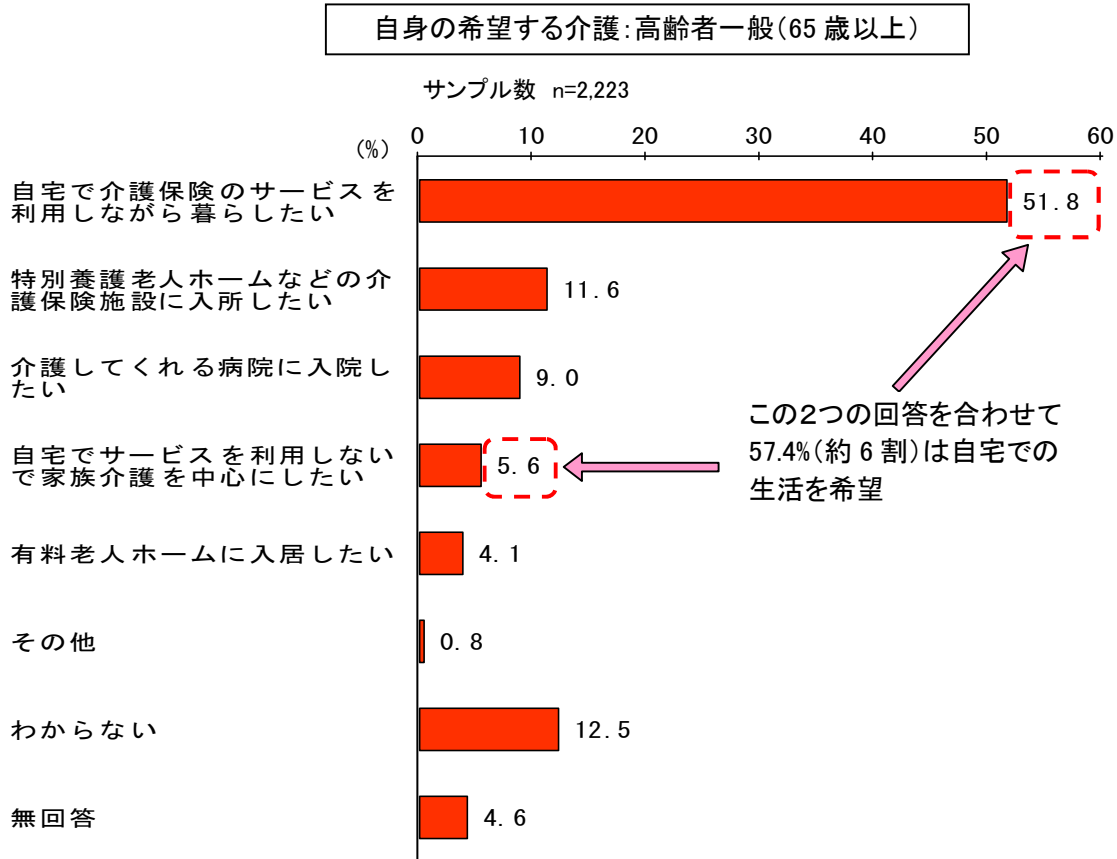
高齢期には、ちょっとした転倒やつまづきが、関節痛、腰痛あるいは骨折等につながる可能性が高いことから、居住空間のバリアフリー化が大切です。

高齢者一般調査（65歳以上）では、一戸建て持ち家に住んでいると回答した方に比べ、民間の賃貸アパート・マンションに住んでいると回答した方は、住みやすくするための工夫をしている方の割合が少ない状況です。

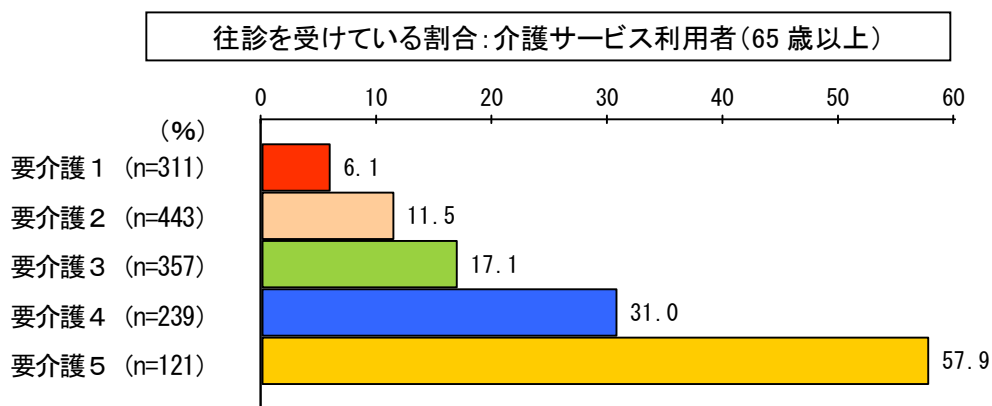


5 在宅での医療・看護・介護

高齢者一般調査（65歳以上）では、自分自身が日常生活をおくる上で介護が必要となった場合に、約6割の方が、自宅での生活を希望すると回答しています。

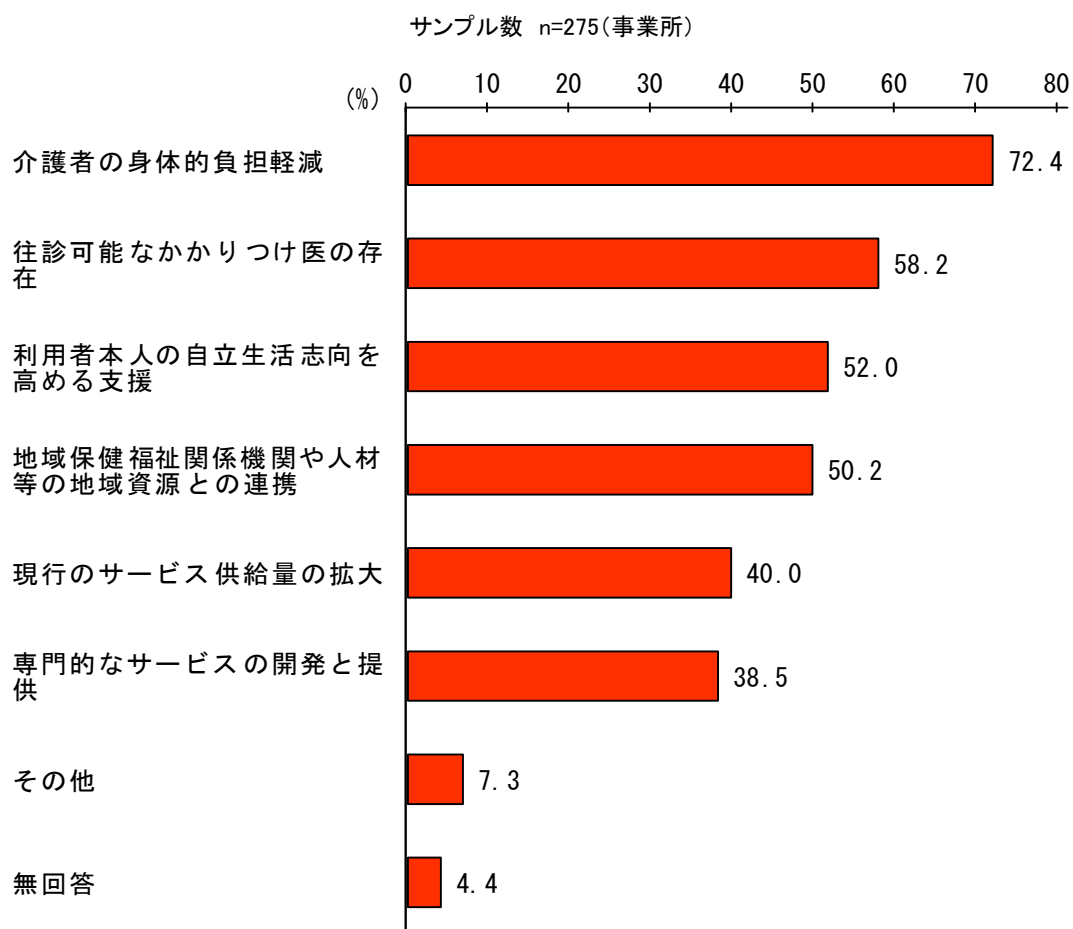


介護サービス利用者調査（65歳以上）では、要介護5の重度な高齢者では、約6割の方が往診を受けており、在宅で介護サービス、医療サービス双方を利用している状況がうかがわれます。



一方、介護サービス事業所調査では、要介護者が在宅生活を継続するための条件として、「介護者の身体的負担の軽減」（72.4％）に次いで約6割の事業所が「往診可能なかかりつけ医の存在」と回答しています。

要介護者が在宅生活を継続するための条件（複数回答）：介護サービス事業所



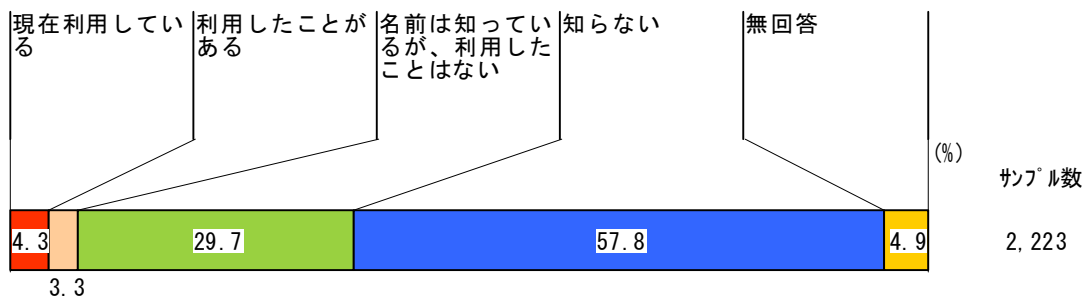
6 地域包括ケアシステム(地域包括支援センター)

平成 18 年度に創設された地域包括支援センターは、高齢者の心身の状態を判断して、介護予防サービスなどのケアプランを作成したり、高齢者やその家族に対する相談、高齢者の虐待防止等の権利擁護などを行う地域介護の中核拠点です。練馬区では、練馬・光が丘・石神井・大泉の4つの福祉事務所に設置しています。また、各地域包括支援センターの支所を 19 か所設置しています。

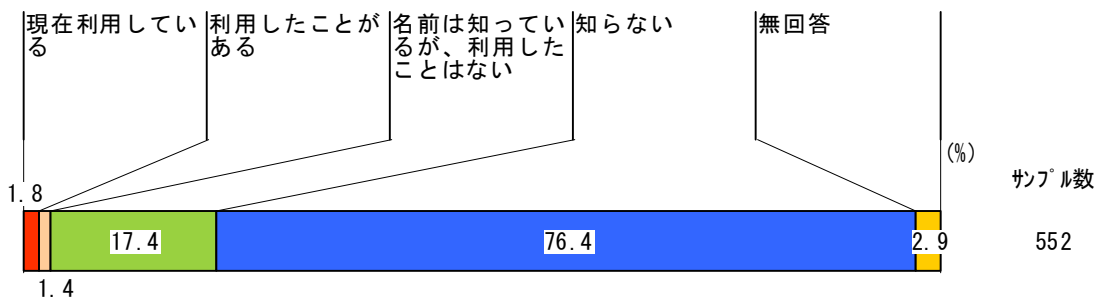
しかし、今回的高齢者一般調査(65歳以上)、これから高齢期を迎える方への調査(55~64歳)では、地域包括支援センターを「知らない」という回答がそれぞれ57.8%、76.4%と、現時点では十分には認知されていない状況にあります。

地域包括支援センター認知状況

高齢者一般(65歳以上)



これから高齢期を迎える方(55~64歳)

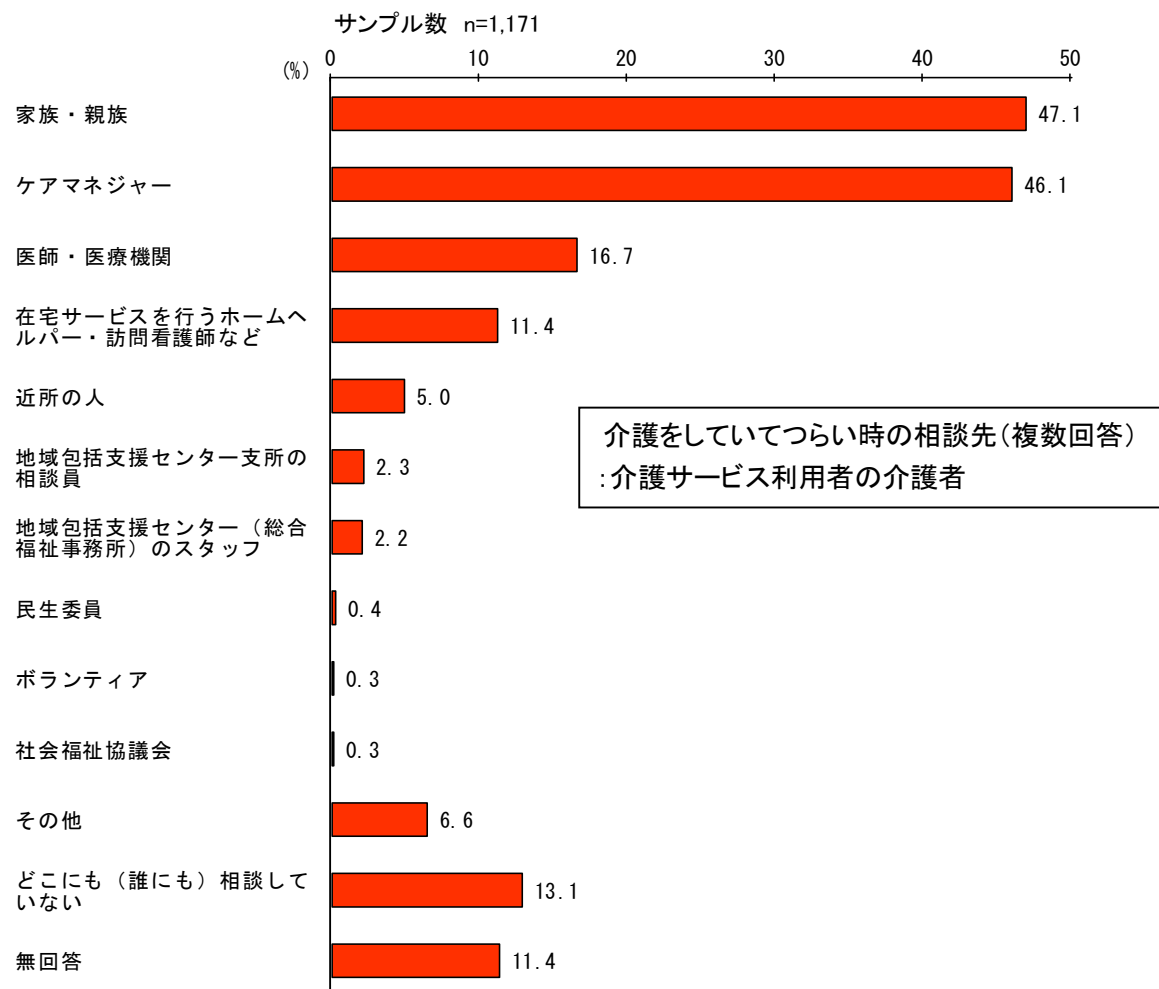
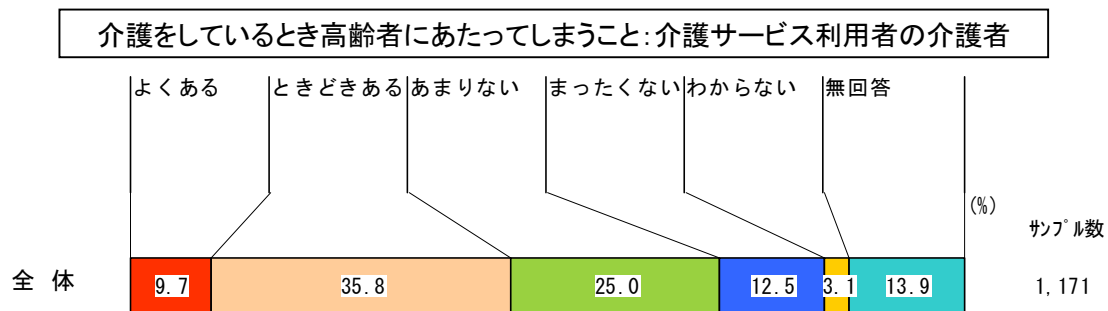


地域包括支援センターが取り組んでいる、高齢者の権利擁護事業では、虐待防止が重要なテーマのひとつです。

高齢者虐待には、身体的、心理的、性的、経済的な虐待のほかに、介護・世話の放棄や放任も含まれます。虐待問題の難しいところは、介護者が介護により心身ともに疲労し、追い詰められていることが少なくないことです。

介護サービス利用者調査（65歳以上）では、介護をしているとき高齢者にあたってしまうことが、「よくある」「ときどきある」との回答が45.5%ありました。

また、介護をしていてつらいときの相談先は、「家族・親族」「ケアマネジャー」が約5割である一方、「どこにも（誰にも）相談していない」は13.1%でした。

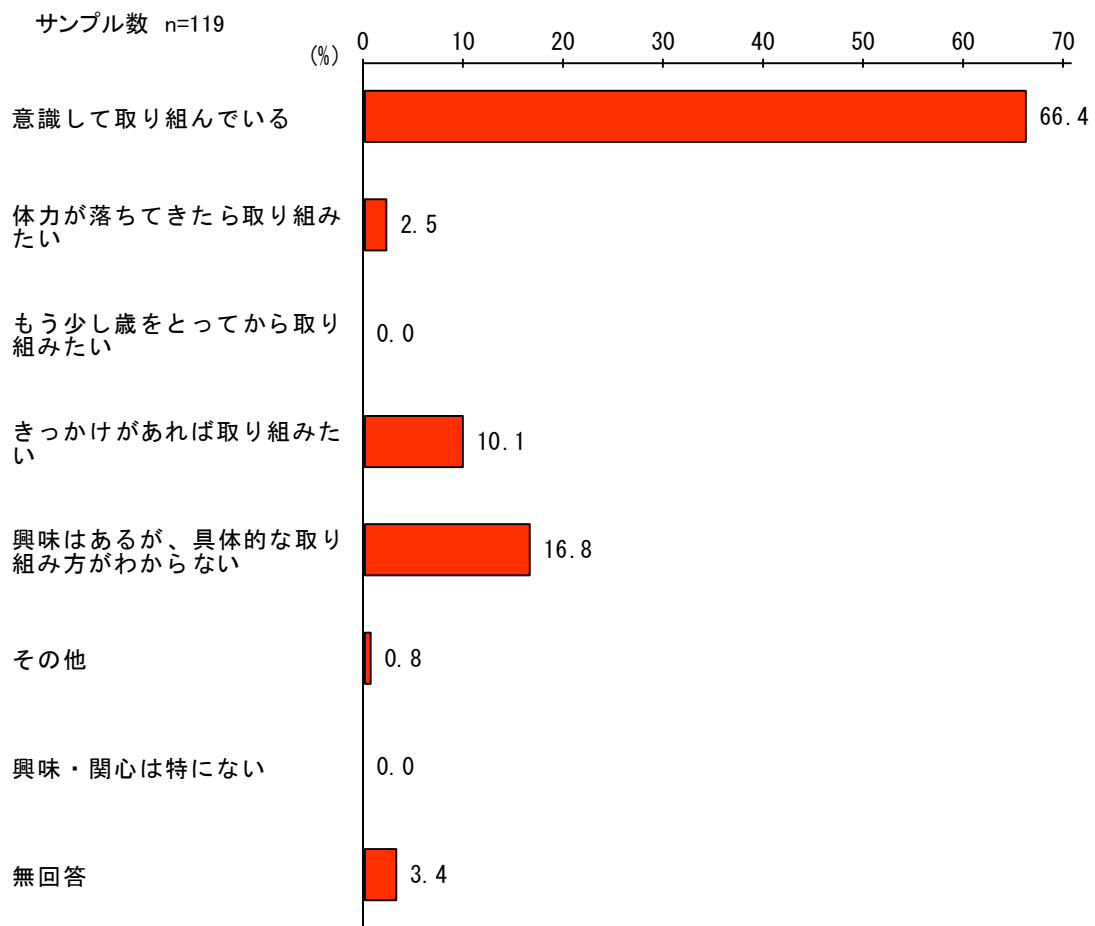


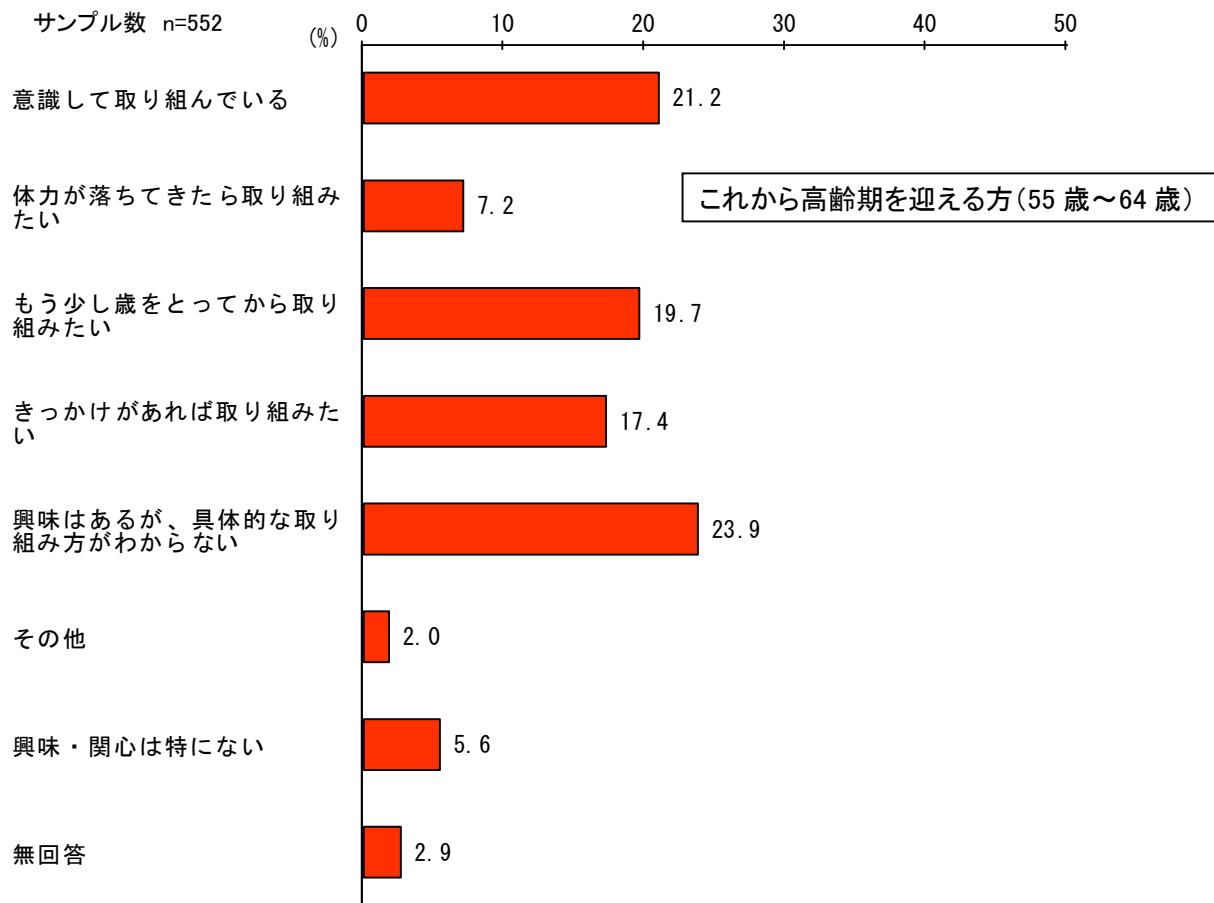
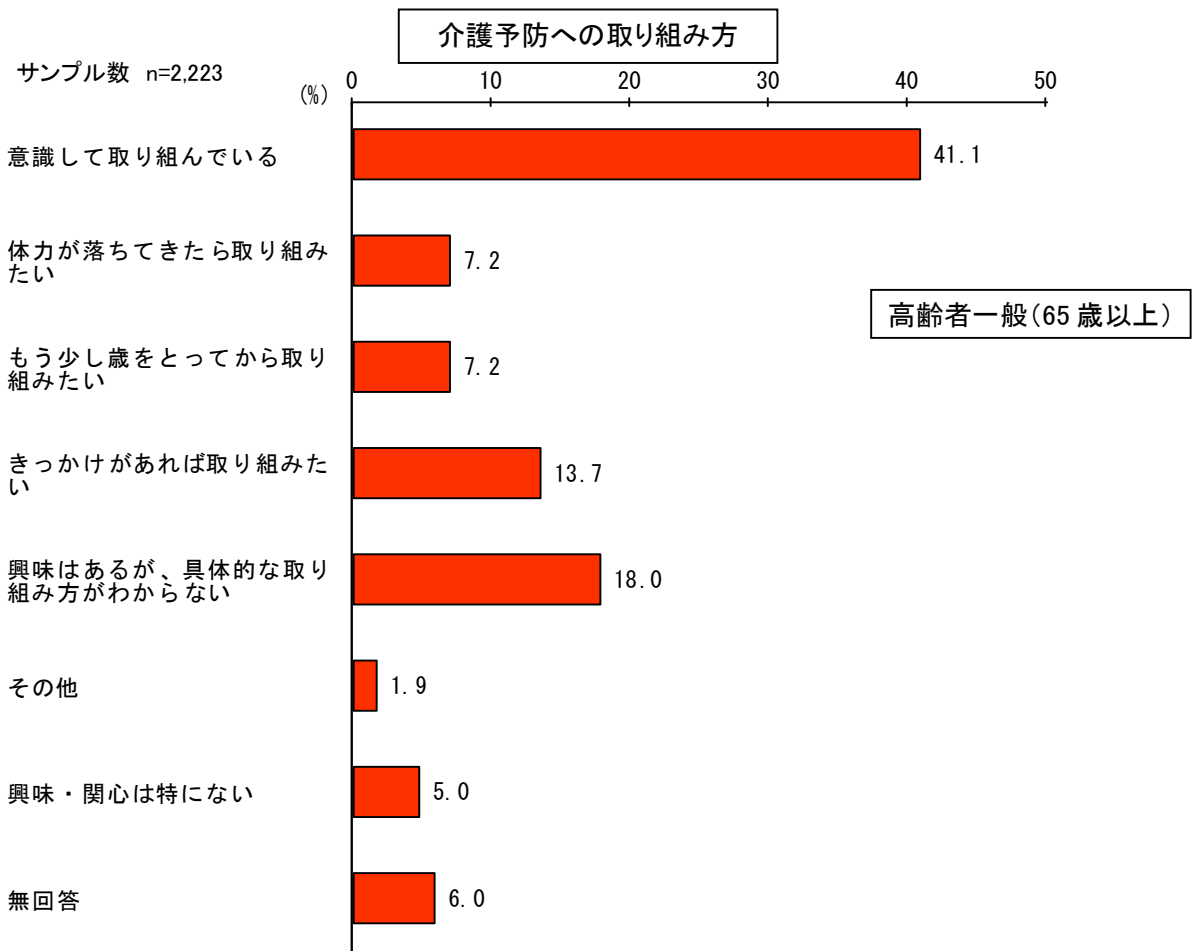
7 介護予防

高齢者ができるかぎり介護を必要とせずに、自立した生活を送れるよう、日ごろから介護予防に取り組むことが必要です。

介護予防への取り組み方をみると、特定高齢者（2ページ参照）の介護予防サービス利用者では、「意識して取り組んでいる」が66.4%であるのに対し、高齢者一般（65歳以上）では41.1%、これから高齢期を迎える方（55歳～64歳）では21.2%と、介護予防の重要性への理解は、十分に浸透していない状況です。

介護予防への取り組み方：特定高齢者（介護予防サービス利用者）

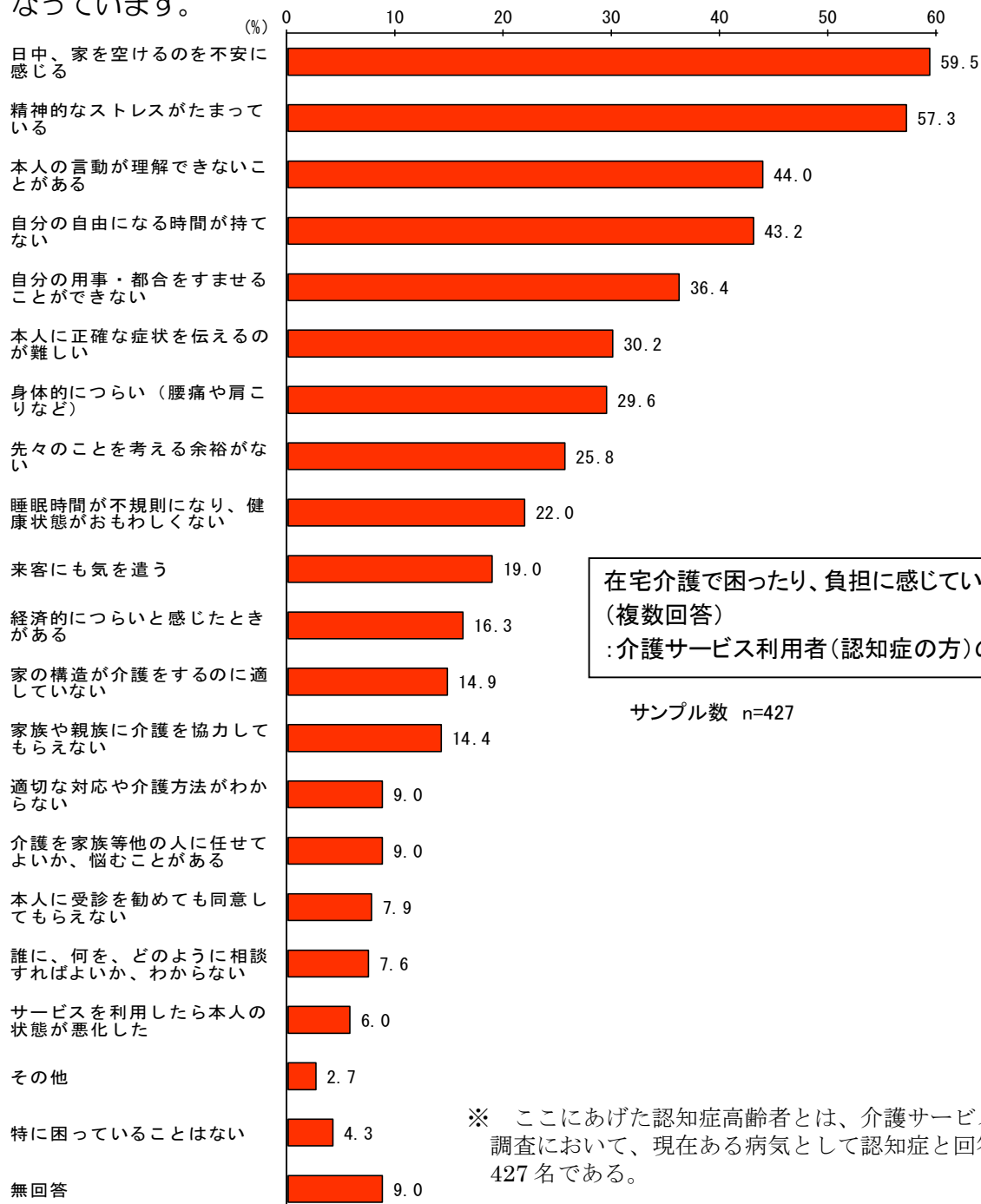




8 認知症高齢者の状況

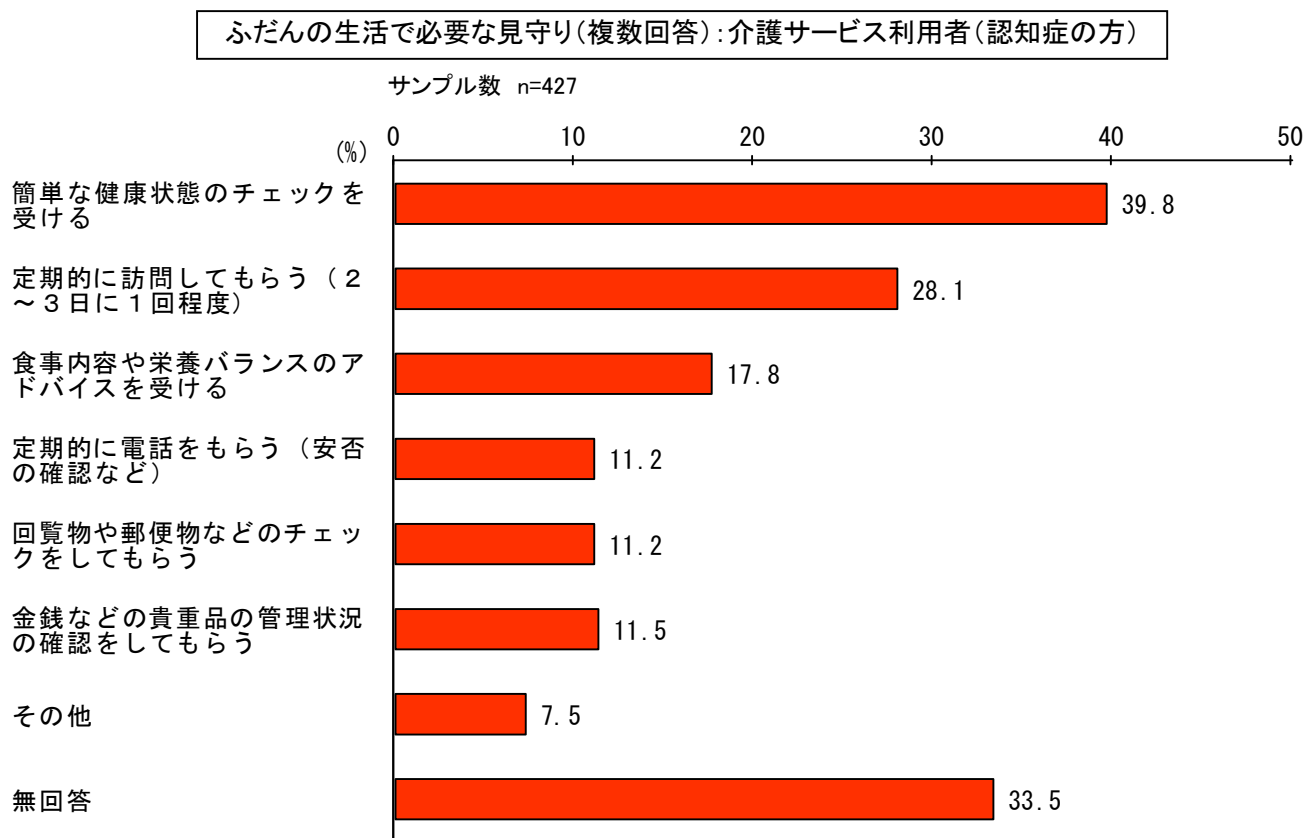
認知症高齢者の介護は、介護者への精神的負担が大きく、要介護者のみならず介護者への支援が重要となります。

認知症高齢者の介護者が、在宅介護で困ったり、負担に感じていることは介護サービス利用者調査(認知症の方)では、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が59.5%、「精神的なストレスがたまっている」が57.3%みられるほか、「本人の言動が理解できないことがある」が44.0%、「本人に正確な症状を伝えるのが難しい」が30.2%と、介護者が要介護者とのコミュニケーションを図ることに困難を感じる割合が高くなっています。



※ ここにあげた認知症高齢者とは、介護サービス利用者調査において、現在ある病気として認知症と回答した427名である。

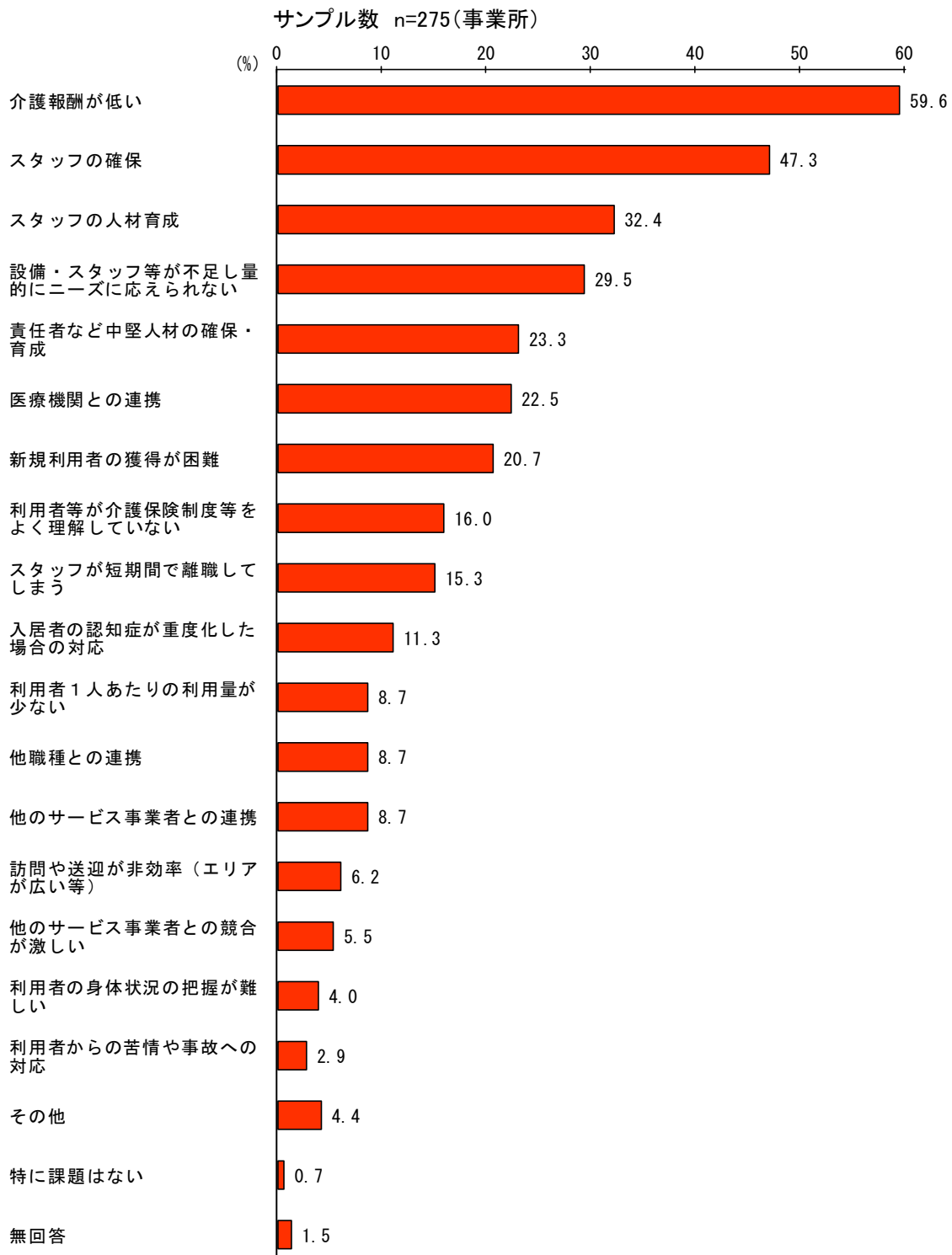
認知症高齢者は健康状態や生活の様子などをきめ細かく見守る必要があります。介護サービス利用者調査（認知症の方）では、「ふだんの生活に必要な見守り」について、「簡単な健康状態のチェックを受ける」が39.8%、「定期的に訪問してもらう（2～3日に1回程度）」が28.1%となっています。



9 介護人材の確保

介護保険サービス事業所調査では、事業運営上の課題として、「介護報酬が低い」(59.6%)のほか、「スタッフの確保」(47.3%)、「スタッフの人材育成」(32.4%)、「設備・スタッフ等が不足し量的にニーズに応えられない」(29.5%)など人材確保に関する課題が多くあげられています。

事業所を運営する上での課題(複数回答):介護サービス事業者



SOY INK

マーク

この印刷物は大豆油インキを使用しています。

練馬区高齢者基礎調査報告書 概要版

平成 20 年（2008 年）3 月発行

編集・発行 練馬区健康福祉事業本部福祉部高齢社会対策課

〒176-8501 東京都練馬区豊玉北 6-12-1

電話：03-3993-1111（代）

調査機関 株式会社 インテージ

〒101-8201 東京都千代田区神田練塀町 3 番地

インテージ秋葉原ビル

電話：03-5294-8305（代）